日印産連表彰受賞者の紹介

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、「9月印刷の月」記念式典において表彰が行われる。本年度は7月26日に開催された表彰選考委員会の審議を経て、同日の顕彰委員会で承認され、8月2日に開かれた第3回理事会にて決定された。

本年度は、4年に一度の印刷文化典のため、印刷文化賞3名、印刷功労賞13名、印刷振興賞18名、特別賞1団体1名が表彰を受けた。

日印産連表彰規定（抜粋）

◆印刷文化賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。
①印刷産業界にあって、印刷産業の発展に貢献し、併せて、印刷文化の昂揚に寄与した者
②印刷関連業界にあって、印刷産業の発展に貢献し、併せて、印刷文化の昂揚に寄与したと認められる者
③学識経験者で、印刷文化の発展向上に寄与したと認められる者
④その他、前項に準ずる者

◆印刷功労賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。
①印刷産業界にあって団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した者
②その他、前項に準ずる者

◆印刷振興賞は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。
①業務の進歩改善に著しく貢献した者、若しくは特に技術優秀な者又は優れた発明考案をした者
②多年にわたり後進の指導並びに業界指導に貢献した者
③その他、前項に準ずる者

◆特別賞は次の各項のいずれかに該当する者（団体を含む）に授与する。
①地域社会の諸活動を通じて地域の振興に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
②福祉活動を通じて社会に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
③その他、前項に準ずる者

印刷文化賞

金子　眞吾

（一社）日本印刷産業連合会　顧問
（日印産連元会長）

凸版印刷株式会社
代表取締役会長

略　　歴

昭和48年４月	凸版印刷株式会社　入社
平成15年６月	同　取締役
平成18年６月	同　常務取締役
平成20年６月	同　専務取締役
平成21年６月	同　代表取締役副社長
平成22年６月	同　代表取締役社長
令和元年６月	同　代表取締役会長（現在）

団　体　歴

平成28年６月	（一財）デジタルコンテンツ協会　会長
平成30年５月	印刷工業会　会長
平成30年６月	（一社）日本印刷産業連合会　会長
令和元年11月	東京商工会議所　副会頭（現在）
令和５年６月	（公財）日本容器包装リサイクル協会　理事長（現在）

受賞理由

社会のデジタル化を印刷産業のチャンスと捉え、DXの重要性をいち早く業界内外に発信するとともに、デジタルコンテンツ協会会長や日本経済団体連合会・サイバーセキュリティ委員長、東京商工会議所中小企業のデジタルシフト・DX推進委員長等の活動を通じ、印刷業界をはじめ我が国産業界のDX推進に幅広く尽力。日印産連会長就任後は、持続可能な社会の形成に向けた印刷産業の社会的責任を重視しSDGsを事業活動の基軸と定め、日印産連SDGs推進プロジェクトを設置し、「地方創生」「地球環境保護」「女性活躍推進」を重点テーマに業界内への普及啓蒙活動を推進した。2018年にはFAPGA 国際印刷フォーラムの日本開催を9年ぶりに実現。日本印刷産業機械工業会と連携し、「IGAS 2018」において日本の印刷を国内外に紹介するJPEX展示を実施し世界の印刷機器メーカー、印刷会社の経営者との国際交流を図るなど、印刷業界の事業基盤強化、社会的地位向上に多大なる貢献を果たした。

藤森　康彰

(一社)日本印刷産業連合会
常任理事
(日印産連前会長)

共同印刷株式会社
代表取締役社長

略　　歴

昭和51年４月	共同印刷株式会社　入社
平成16年６月	同　取締役
平成18年６月	同　常務取締役
平成22年６月	同　専務取締役
平成25年６月	同　代表取締役社長(現任)

団　体　歴

平成28年５月	印刷工業会　常任理事
平成28年６月	(一社)日本印刷産業連合会　常任理事
令和２年５月	印刷工業会　会長
令和２年６月	(一社)日本印刷産業連合会　会長
令和２年６月	(一財)印刷図書館　理事長
令和２年６月	(公財)文字･活字文化推進機構　理事
令和３年５月	(学)日本プリンティングアカデミー理事

受賞理由

日印産連及び印刷工業会会長に就任の2020～2021年度においては、加速するデジタル化に加え、「パンデミック経済危機」、「諸資材の高騰」、「環境意識の更なる高揚」など、印刷産業を取り巻く状況が激変する中、それらの重要課題に果敢に挑戦し、卓越したリーダーシップを発揮し多くの実績を残した。コロナ禍において印刷産業が先んじて行動に移れるよう、いち早く立ち上げた「アフターコロナプロジェクト」では、各団体会長･若手経営者の識見等を『Change Together』に編み、取り組むべきことの提言を発出し、現在と未来の行動論の礎とした。また、印刷産業を代表して首相官邸へ出向き、「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化会議」で中小の現況を訴え、政策に資するものとした。環境への取り組みにおいても、従来の自主行動計画に加え、「2050年カーボンニュートラル宣言」により印刷産業の環境に対するコミットメントと行動指針を明確にし、もって産業のイメージアップとプレゼンスの向上に貢献した。

水野　雅生

ミズノ・プリンティング・
ミュージアム　館長

ミズノプリテック株式会社
取締役会長

略　　歴

昭和39年７月	ドイツバイエルン州立ミュンヘンアカデミー工芸卒業
昭和40年４月	ミズノプリテック株式会社 入社
昭和53年10月	同　社長に就任
昭和63年４月	ミズノ・プリンティング・ミュージアム開館、館長に就任
平成25年	ミズノプリテック株式会社 会長、及びNPO法人築地居留地研究会理事長に就任

受賞理由

社業である「ミズノプリテック」の経営にとどまらず、海外留学時に得た貴重な体験から「印刷」の歴史、文化への貢献を数多くの資料を収集し、公開している。「ミズノ・プリンティング・ミュージアム」として集大成され、内外を問わず「印刷」の持つ文化的価値を情報発信されている。

その内容は、「世界3大美書」「インキュナビュラ」等、人類の宝とも評価される出版物だけでなく、それらを制作した活版印刷機にも及んでいる。その中でも、明治18年頃に製造された本木昌造を師と仰ぐ平野富二によるアルビオン型手引き活版印刷機は㈳日本機械学会により、「機械遺産」として認定されている。

また、ジョン万次郎、福澤諭吉の研究家でもあり幕末から明治に至る幅広い歴史の語り部でもある。「百万塔陀羅尼」の複製、「学問のすすめ」の復刊と現代語版の制作にも注力されている。

印刷功労賞

大久保　伸一

凸版印刷株式会社
副社長　執行役員

印刷工業会

受賞理由

凸版印刷に入社以来、主に人事労政分野に従事し、人事制度の近代化、職場の安全対策、人財育成、ダイバーシティの推進、ウエルビーイング経営の推進などの課題に取り組み、印刷業界を牽引する革新的な施策を実現してきた。また、印刷工業会での女性活躍推進や、会員相互の連携などを積極的に支援。経済同友会、関東経営者協会においては、人財の育成や人事諸制度などの課題で印刷業界からの声を社会に届けるなど、業界の発展に大きな役割を果たした。

清水　市司

共同印刷株式会社
元取締役　専務執行役員

印刷工業会

受賞理由

2006年から4年間、軟包装部会の部会長を務め、それ以前は1999年より5年間紙器印刷部会の副幹事長として部会長を支えたなど長年にわたり情報の共有、発信を行うことで包装産業の振興と発展に寄与した。自社においてはパッケージ部門の要職を歴任し、現在の生活・産業資材セグメントの躍進の基礎を築いた。

山添　英樹

ライト印刷株式会社
代表取締役社長

印刷工業会

受賞理由

2014年5月に印刷工業会の理事に就任し、以降9年にわたり印刷業界の発展と地位向上に尽力し現在も理事を在任中である。また印刷工業会の部会活動には商業印刷部会と資材部会に対し積極的な委員の派遣を行い、印刷工業会活動に多大なる支援を行った。

酒井　陽典

あらゆる印刷共和印刷株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成26年から全印工連常務理事、高知県工組理事長、平成28年からは、全印工連理事として中小印刷産業の振興・発展に努める。この間、四国地区印刷協議会会長などの要職を務め、全印工連のテーマである「志あふれる印刷産業へ、期待される価値を求めて」の実現に向けて、印刷産業の持続的な発展と社会生活を創造する、新しい印刷産業の構築に関わる諸事業の周知・推進に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

三島　秀夫

六三印刷株式会社
専務取締役

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年から令和2年までの4年間、全印工連常務理事などの要職に就く。この間、CSR推進委員会委員長として、早くから「企業を取り巻く環境が大きく変化する中、持続可能な経営をするために、社会から求められる様々な要請に応える企業としての社会的責任を果たす」ことの重要性を謳い、業界団体として日本初の「CSR認定制度」の立ち上げ、その推進に貢献し、中小印刷産業の振興・発展に大きく尽力した。

東條　秀樹

大阪シーリング印刷株式会社
顧問

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年から、全印工連理事、平成30年からは、全印工連常務理事、近畿地区印刷協議会会長などの要職を務める。この間、「Happy Industry　人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」というブランドスローガンに則し、印刷産業の新しい方向性を提案し、人々の幸せを作り続ける印刷産業を実現するための各種事業の推進に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

坂田　甲一

TOPPANエッジ株式会社
相談役

日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

TOPPANグループにて永年にわたり、働き方をめぐる諸般の改革に取り組みを重ねた。2011年からはビジネスフォーム業界のリーダー企業として業界団体において寺子屋プロジェクトを推進し、DX時代に向けた次代を担うべき人材の育成に注力しながら、コロナ禍で全国の団体活動を支えた。併せて、企業においてもデジタルハイブリッドを提唱し、印刷産業の地位向上に大いに貢献した。

熊谷　正司

株式会社くまがい印刷
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2010年から12年間ジャグラの副会長、理事などの要職に就く。各種委員会を歴任し、2014年から「教育技術委員会」の委員長としてインターネット放送「ジャグラBB」による教育および情報提供の推進を始め、ジャグラの数多くの事業を牽引した。また、2012年から8年間東北地協会長を歴任し、地元である秋田県支部の組織拡大と東北地協の活性化に尽力した功績は多大である。

印刷功労賞

田中　真文

株式会社田中紙工
代表取締役社長

全日本製本工業組合連合会

受賞理由

現在、全日本製本工業組合連合会会長の要職を務める。2014年より全製工連の副会長に就任し、2016年より同副会長兼専務理事に就任。東京工組では、2014年より副理事長、2018年より2020年まで理事長を務めた。2013年には担当委員長として、2018年には全製工連会長として、製本産業ビジョンをまとめあげ、常に製本業界事業者の指針を示しており、その功績により組合組織および業界の発展に努めた功績は大きい。

早川　正彦

有限会社早川銘板製作所
代表取締役社長

全日本シール印刷協同組合連合会

受賞理由

神奈川県シール印刷協同組合で理事10年、内4年間は理事長を歴任した。その間全日本シール印刷協同組合連合会では副会長を歴任した。日本印刷産業連合会では環境委員会の環境保全対策研究会に当連合会から派遣された。環境委員会在籍中には、その知識と経験をフィードバックして当連合会のGP認定事業推進に活躍した功績が大きい。全日本シール印刷協同組合連合会の副会長在任中には組織の強化にも尽力してその功績も大きい。

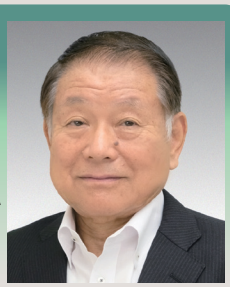
村田　英雄

全国グラビア協同組合連合会
元専務理事、教育・情報担当顧問

受賞理由

昭和58年マルトグラビア印刷㈱の代表取締役就任と同時に関東プラスチック協同組合の理事に就任その後、平成2年に専務理事就任後は4代の理事長を補佐しつつ日印産連、東印産協の各種委員会にて活躍していた。そして翌年の平成20年からは関東グラビア協同組合並びに全国グラビア協同組合連合会の事務局として勤務をはじめ業界発展の為に尽力し、食の安全・安心を担う軟包装資材（ソフトパッケージ）の普及と社会的認知に計り知れない功績がある。

枠元　孝夫



株式会社アズワン
顧問

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

受賞理由

東京グラフィックコミュニケーションズ工業組合の理事を2005年から8年間務め、続いてGCJ及びGC東京の常務理事に就任、その間、当組合の運営する「GCのトビラ」委員会で中心的役割を果たす。また、日印産連の委員会にも積極的に参加し、特に知的財産部会においては、精励し組合の知財に対するレベルアップに貢献した。常務理事退任後は監事を務めるなど、18年の長きにわたり組合運営に尽力した。

上村　均

株式会社上村考版
取締役 会長

全日本スクリーン・デジタル印刷
協同組合連合会

受賞理由

16年の長きにわたり、全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会の理事を務め、業界の活性化と後進の育成に多大な貢献を果たした。また、岐阜県スクリーン印刷協同組合の設立に中心人物の一人として関わり、岐阜県で開催された連合会の全国大会の開催に尽力した。特に全国の組合員から好評を博した、全国大会会場でのミニ展示会の開催において果たした功績は多大である。

印刷振興賞

小山　浩司

日本製紙株式会社
紙パック営業統括部
製版技術グループ
主席技術調査役

印刷工業会

受賞理由

入社以来、液体紙容器の製版業務に携わり、アナログからデジタル製版への変革に寄与。製版や刷版工程のデジタルワークフローで版メーカーと一緒に技術確立し、メーカーの信頼を得て、印刷技術向上に貢献した。

真田　陽一

株式会社DNP
書籍ファクトリー
代表取締役社長

印刷工業会

受賞理由

DNP入社以来、オフセット印刷技術者としてオフ輪機の生産性向上、省力化に尽力した。その後、関西、海外及び関東のグループ会社の責任者を約17年にわたり歴任し、各社の業績改善や後進指導に貢献した。

前田　隆一郎

株式会社光邦
前代表取締役社長

印刷工業会

（故人）

受賞理由

業界団体の要職を歴任し、地域の活性化と印刷業界の発展向上に貢献した。ISO14001取得、GP認定、印刷産業環境優良工場「経済産業省商務情報政策局長賞」を受賞するなど環境問題に対する取組みを促進した。

山口　善生

有限会社東洋印刷所
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年から全印工連理事および長崎県工組理事長の要職を務める。また、平成26年から、組織共済委員会の委員を務め、組合員加入増強活動や共済制度加入促進キャンペーンの推進に尽力し、大きな成果を上げた功績は顕著である。

荻野　豊

株式会社三島印刷
代表取締役会長

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年から令和2年までの4年間、全印工連理事、静岡県工組理事長および関東甲信越静地区印刷協議会幹事の要職を務める。この間、中小印刷業界の地位向上、組織強化の推進に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

小野　健介

いづみ印刷株式会社
代表取締役会長

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年度からの6年間、全印工連理事、大分県工組理事長として、業態変革事業やソリューションプロバイダーへの進化、幸せな働き方改革などの全印工連各種事業を積極的に推進し、中小印刷業界の発展向上に大きく貢献した。

藤森　英夫

亜細亜印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成30年から令和4年まで、全印工連理事、長野県工組理事長、関東甲信越静地区印刷協議会副会長の要職を務める。この間、経営、環境、組織、教育の各種事業を積極的に推進するなど、中小印刷業界の振興発展に果たした功績は大きい。

徳永　昌二

株式会社啓文社
取締役

全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成30年から令和4年まで、全印工連理事、熊本県工組理事長として中小印刷業界の振興発展に尽力する。平成26年から4年間にわたり、全印工連環境労務委員会委員を務め、環境関連情報の収集と積極的な周知・啓発を行った功績は顕著である。

佐々木　慎一

河和田屋印刷株式会社
代表取締役社長

日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

20年以上にわたり、常任理事として日本フォーム工連並びに、関東工業会の「縁の下の力持ち」として貢献した。また「中小企業長官賞」を2度にわたり受賞し、その活躍は東京本社と福井本社を構える地元においても健在である。

山口　毅紀

株式会社アイミック
代表取締役

日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

北海道フォーム印刷工業会の理事として、積極的に活動参加し、協力し、北海道フォーム印刷工業会において大変貴重な存在となっている。また、長年北海道の印刷業界の発展に貢献している。

樋貝　浩久

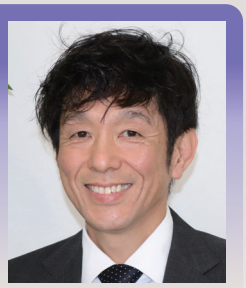
有限会社東和プリント社
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2014年から7年にわたり副会長、理事を歴任する。また、2014年から山梨県支部長として組織拡大、活性化を図る。2017年から個人情報保護委員会の委員、2022年からは委員長として個人情報保護の推進に貢献した。

池邉　寛



株式会社エデンメディアワークス
代表取締役社長

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2010年から副会長、理事、地協会長など要職に就く。九州地協、大分県支部の組織強化、活性化に貢献した。また、2022年からクロスメディア事業を担当し、「DTP教室」や「ジャグラコンテスト」の拡充を図る。

印刷振興賞

田中　尚寛

田中手帳株式会社
代表取締役社長

全日本製本工業組合連合会

受賞理由

平成28年から全日本製本工業組合連合会監事および大阪府製本工業組合副理事長の要職を務める。全製工連監事として、組合組織の管理体制強化に貢献し、製本業の振興発展に尽力している。

三川　伊三郎

サンエーカガク印刷株式会社
取締役会長

全日本シール印刷協同組合連合会

受賞理由

東京都正札シール印刷協同組合の理事2年、専務理事2年の歴任中には組合員の脱退に伴う組合員数の減少問題に直面し、役員の若返りを推進すると共に、支部組織の再編を成し遂げて組織の強化に尽力した。また、全日本シール印刷協同組合連合会との連携による意見交換で活性化にも尽力した。

石山　正明

トーホー加工株式会社
小山工場　技術顧問

全国グラビア協同組合連合会

受賞理由

東洋インキ(株)にてグラビア・フレキソインキの開発・販売、東洋FPP(株)にて製版事業にも従事され、全国グラビア製版工業会連合会専務理事等、長年の業界活動を通じて発展に寄与した。東洋インキ退社後は、トーホー加工(株)小山工場で技術顧問を務め、インキ・接着剤・製版の知識を生かし、後進の指導、生産改善に努めている。グラビア業界歴50年に迫る生き字引。

青木　重雄

株式会社セイユー社
代表取締役　社長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会

受賞理由

18年にわたりGCJ、GC東京の理事、監事を務め、組合員の情報共有、特に会員増強に尽力する。恒例の「GC東京ボウリング大会」の副実行委員長として、若手との交流に手腕を発揮、会の活性化への貢献は大きい。

阿部　研一

阿部スクリーン印刷株式会社
代表取締役社長

全日本スクリーン・デジタル印刷
協同組合連合会

受賞理由

屋内外広告物で培った技術をもって、業界の技術向上に力を注いだ。また東京組合の広報委員会責任者として年4回の組合誌の発行に尽力し、現在も広報委員会に参加し後進の指導に当たっている。

中原　美代子

中原産業株式会社
取締役会長

全日本光沢加工紙協同組合連合会

受賞理由

関西光沢化工紙協同組合の監事着任以降、長きにわたり職務に精励し、組合の運営、発展に尽力した。監事という立場から時には厳しい目で運営状況を指摘。繊細な感覚と豊富な発想を以て、周年事業をはじめ全国大会など手腕を発揮し、理事長や若い役員を支えた。

特 別 賞

福島県印刷工業組合郡山支部

全日本印刷工業組合連合会

FSC森林認証制度取得を通したSDGsの推進活動

福島県印刷工業組合郡山支部　支部長 石井 祐一

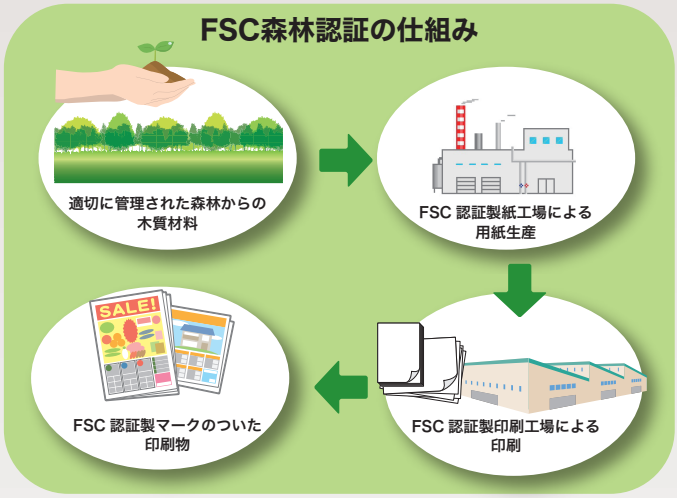
取り組み内容

■FSC森林認証紙取扱資格取得を2006年より関連業含む5社からスタート。印刷関連団体として全国でも有数の取得率を誇り、認証取得14社にてFSC懇話会として研修・勉強会等を行いFSC森林認証紙の普及活動を行っている。

■FSC森林認証制度の国内組織であるFSCジャパンから講師を招き、FSC森林認証制度とSDGsとの連携について理解を深めるセミナーを開催した。

受賞理由

福島県印刷工業組合郡山支部では、2006年に、FSC森林認証制度を支部組合員3社と紙卸業者2社との計5社で共同取得し、以来17年間維持、更新している。現在では支部15社中9社が取得し、関連業社5社と合わせ14社に増えたかたちで認証制度を推進している。福島県郡山市が本年2月に開催した第4回郡山市持続可能な地域づくり活動推進表彰（こおりやまSDGsアワード）において、福島県印刷工業組合郡山支部のFSC森林認証紙使用によるSDGs推進活動が評価され「地域貢献特別賞」を受賞した。FSC森林認証制度を通してSDGsを推進していくことで、中小印刷業界の持続的な発展に大きく貢献している。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

関連するゴール

セミナーチラシ

SDGsセミナー

甲 斐 田　光

第46回技能五輪国際大会（特別開催）印刷職種日本代表選手

株式会社 丸信

受賞理由

当会主催の同代表選手選考会においては、学科・実技とも優秀な成績で日本代表選手に選考された。2022年に日本を含む世界15の国・地域で分散開催され、日本からは51種類に59名の選手が参加した第46回技能五輪国際大会（特別開催）では、10月にスイス・アーラウで開催、7か国の選手がエントリーした印刷職種の選手として参加。オフセット印刷・デジタル印刷・調色・印刷シミュレーター（SHOTS）など幅広い競技で技術・技能を発揮し、第4位敢闘賞を獲得した。